

そんぽジャーナル

February 2026 第6号

シリーズ⑥ 金融経済教育を語る

巻頭インタビュー

小高 さほみ 氏

日本女子大学 建築デザイン学部
建築デザイン学科 学術研究員

● 授業実践事例〈リアルボイス〉

家庭科

後藤 亜里紗 先生

さいたま市立浦和高等学校教諭

公民科

塙 枝里子 先生

東京都立農業高等学校主幹教諭

● 高校生向け金融教育副教材

「**明るい未来へTRY!**
～リスクと備え～」のご紹介



一般社団法人 日本損害保険協会

損害保険教育情報誌 そんぽジャーナル 第6号 (2026年2月20日発行)

一般社団法人 日本損害保険協会 業務企画部 啓発・教育・防災グループ

〒101-8335 東京都千代田区神田淡路町2-9
TEL: 03-3255-1215 URL: <https://www.sonpo.or.jp/>

INFORMATION

日本損害保険協会では、教員の皆さまや一般の方々に向けて、損害保険教育に関する情報を発信する

そんぽ学習ナビ を開設しています。

見やすく、分かりやすく、
ほしい情報が手軽に
入手できます



<https://www.sonpo.or.jp/education/>

損害保険教育情報誌「そんぽジャーナル」は、

そんぽ学習ナビ で「創刊号」から最新号

「第6号」までの全号をご覧いただけます。



<https://www.sonpo.or.jp/education/others/journal/>



一般社団法人 日本損害保険協会 会員会社一覧

| | | |
|--------------------|--------------------|----------------------|
| あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 | さくら損害保険株式会社 | 日新火災海上保険株式会社 |
| アイペット損害保険株式会社 | ジェイアイ傷害火災保険株式会社 | 日本地震再保険株式会社 |
| アクサ損害保険株式会社 | セコム損害保険株式会社 | ペット&ファミリー損害保険株式会社 |
| アニコム損害保険株式会社 | 全管協れいわ損害保険株式会社 | 三井住友海上火災保険株式会社 |
| AIG損害保険株式会社 | ソニー損害保険株式会社 | 三井ダイレクト損害保険株式会社 |
| エイチ・エス損害保険株式会社 | 損害保険ジャパン株式会社 | 明治安田損害保険株式会社 |
| SBI損害保険株式会社 | SOMPOダイレクト損害保険株式会社 | 株式会社ヤママップネイチャランス損害保険 |
| au損害保険株式会社 | 大同火災海上保険株式会社 | 楽天損害保険株式会社 |
| 株式会社NTTドコモ損害保険 | 東京海上ダイレクト損害保険株式会社 | レスキュー損害保険株式会社 |
| キャピタル損害保険株式会社 | 東京海上日動火災保険株式会社 | |
| 共栄火災海上保険株式会社 | トーア再保険株式会社 | |

2026年1月現在(会員会社31社50音順)



この冊子は再生紙を使用しています

巻頭
インタビュー

金融経済教育を語る

高等学校家庭科では、「生活設計」や「生活における経済の管理と計画」について学ぶこととされています。その教育の意義や金融経済教育の必要性について、平成30年度版の高等学校学習指導要領家庭編の改訂に携わった、日本女子大学建築デザイン学部学術研究員の小高さほみ氏にお話を伺いました。

ウェルビーイングの実現には、大人になる前に金融リテラシーを身につけておくことも重要



日本女子大学 建築デザイン学部
建築デザイン学科学術研究員
小高さほみ氏

金融経済教育の国際的動向

近年、国内外において金融経済教育の重要性が高まっています。

ですが、その背景には大きな社会変動とグローバル化の進展があります。特に2008年の世界的な金融危機（リーマン・ショック）は、個人の金融行動が世界

経済に甚大な影響を与え得ることを浮き彫りにし、一人ひとりが「金融リテラシー」を身につける必要性を強く認識させる契機となりました。こうした教訓から、アメリカやイギリスをはじめ各国では、国民一人ひとりの金融リテラシー向上に力を入れるようになりました。また、OECD（経済協力開発機構）の金融教育に関する国際ネットワーク（INFE）が策定した「金融教育のための国家戦略に関するハイレベル原則」が、2012年のG20サミットで承認されるなど、金融経済教育は、国のレベルで推進していくようになってきました。一方、日本では以前から金融広報中央委員会、金融庁をはじめ

●こだか・さほみ
お茶の水女子大学大学院修了、博士（人文科学）。聖心女子大学教育学科非常勤講師、秋田大学教育文化学部准教授、上越教育大学大学院学校教育研究科教授などを経て、2025年4月より日本女子大学所属、青山学院大学教育人間科学部非常勤講師。

《目次》

損害保険教育情報誌 **そんぽジャーナル**
第6号 February / 2026

3 ↑

巻頭インタビュー 金融経済教育を語る



日本女子大学 建築デザイン学部
建築デザイン学科学術研究員
小高さほみ氏

授業実践事例「リアルボイス」



主体的な学びを促すため、生徒の発表を中心とした授業を展開。金融リテラシーの基本を身につけ、ライフプランを考える力を養う。
さいたま市立浦和高等学校教諭
後藤 亜里紗 先生
〈今回、実践した授業プランのご紹介〉

8

公民科



金融分野と社会保障分野を横断して学ぶ生徒が「自分ごと」として考える授業を展開
東京都立農業高等学校主幹教諭
埴 枝里子 先生
〈今回、実践した授業プランのご紹介〉

10

明るい未来へTRY! のご紹介

生徒用教材

- 「冊子」動画
- 「教員の皆さま向け」
- 「教員用ハンドブック」



12

INFORMATION

日本損害保険協会では、教員の皆さまや一般の方々に向けて、損害保険教育に関する情報を発信する「そんぽ学習ナビ」を開設しています。

め様々な組織が金融教育を進めていたが、この国際的な流れを受け、金融経済教育を推進するための環境整備が進みました。このような動向から、2012年は金融リテラシー元年と呼ばれることもありま

尚、2024年には、官民一体で金融経済教育を推進する唯一の公的機関として、金融経済教育推進機構(通称『J-FLEC』(ジェイ・フレック))が発足しています。

「生活設計を主軸とした、家庭科における金融経済教育」

先の「ハイレベル原則」では、金融経済教育の目的は「ファイナンシャル・ウェルビーイングの向上である」と提起されています。そして、「G20/OECD金融消費

者保護ハイレベル原則(2022年改訂)では、「個人のファイナンシャル・ウェルビーイングとは、客観的および主観的な要因に基づいて、自分の現在および将来の財政を管理し、安全であると感じ、自由を持つことを指す」と示されています。高等学校の家庭科の実践において、ファイナンシャル・ウェルビーイングという概念で捉えてはいなかったかもしれませんが、これらは、「生活設計」や「生活における経済の管理と計画」の学習そのものと言えます。

高等学校の家庭科では学習指導要領(解説)に「基本的な金融商品の特徴、資産形成の視点にも触れるようにする」と明記されました。それは、単なる金融知識の伝達ではなく、「自分の現在および将来の財政を管理」す

ることは、「生活設計」の一面であることを捉え教育することと言えるでしょう。

例えば、高校卒業後のキャリアアップニングを考える中で、「親元を離れて進学する」というシミュレーションの場合、「どこに住むのか」「初期費用や家賃はいくらか」「賃貸契約はどう結ぶのか」といった具体的な生活の課題に直面します。そこで初めて、敷金・礼金や火災保険といった契約・金融の知識が必要になります。このように、「生活設計」を主軸に置いた金融経済教育が、家庭科ならではのアプローチだと考えます。

また、高等学校の家庭科の学習指導要領(解説)において、「生活設計」が科目の導入として、そしてまとめとして扱うことが示されているのは、最初の授業

で、人生を見通し、生活の営みを学ぶ必要性に気づき、家計管理などの生活経済や衣食住、消費生活などの学びを経て、最後にそれらを統合して、生活課題に対応した意思決定を踏まえた生活設計を考えるという学びを意図しているからです。

家庭科における金融リテラシーとして、まずは「家計管理と経済計画」を身につけてほしい

金融リテラシーとは、「健全な財務上の意思決定を行い、最終的には個人の金融面での幸福を達成するために必要となる、金融に関する意識、知識、スキル、態度および行動の組み合わせ」と定義されています(OECD, 2020)。

金融経済教育を通じて、成年年齢を迎える高校卒業までに生徒に身に付けてほしい金融リテラシーは、「家計管理と経済計画」の理解です。家計管理は、月や年などの単位で、家計の収入と支出を把握し、収支バランスを

巻頭インタビュー



Kodaka Sahomi

管理する力です。社会に出れば、多くの人が職業の収入の範囲内で、税金や社会保険料、生活費を支払い、家計を管理することになります。

一方で、「経済計画」は、短期と長期の計画があります。将来の不測の事態に備えるリスク管理、就職、結婚、出産、引退といったライフイベントは、家計の収支バランスを大きく変化させると同時に、社会保障制度との関わりや直面するリスクも変化させます。同時に、預貯金や

民間保険、投資信託等の金融商品の役割についても触れるといいでしょう。

「家計管理」と「経済計画」は、「生活設計」を結びつけての題材構想も大切です。

外部教材を活用しながら、教育格差のない「学びの場」の提供を

金融経済教育に対して苦手意識や不安を抱く先生方にまずお伝えしたいことは、「専門的な金融知識を教えなければ、多様

で複雑な金融商品を知らなければ…」と過度に構える必要はなく、金融経済教育の目的と家庭科のアプローチを理解することが重要かと思えます。

現在は、J-FLECや各団体から、高校生向けの質の高い教材や動画が数多く提供されていますので、活用することもよいと思います。

また、教材の研究や活用にあたっては、自分ひとりではなく、公民科など関連教科の教員と連携しながら進め、「制度は公民

科で、それを自分の生活にどう生かすかは家庭科で、どう変革するかは両教科で」といったように、教科横断的な連携を図ることで、生徒にとってより深い学びへとつなげていただきたいと思えます。

尚、「お金の話は家庭で教えられる」という意見もありますが、お金に関する家庭の環境や文化は多様なことから、学校や社会で学ぶ意義はこれから増すことと思えます。

金融経済教育では、生涯学習を重視しています。幼児から高齢者まで各年齢層で身に付けるべき金融リテラシーの内容を項目別に体系化した『金融リテラシー・マップ』が策定されています。特に、高等学校は、社会に出る前に金融リテラシーを身につけることができる「最後の機会」として重要です。このことは、現場の先生方が一番おわかりのことと思います。家庭科における金融経済教育が、より良い生活の実現につながることを願っています。

主体的な学びを促すため、生徒の発表を中心とした授業を展開。金融リテラシーの基本を身につけたライフプランを考える力を養う

副教材『明るい未来へTRY!』を活用して、生徒が自ら考える授業を展開した後藤先生に、その授業の流れと狙いについて伺いました。



さいたま市立浦和高等学校 教諭
後藤 亜里紗 先生

今回は「生活設計」の単元において、2時間連続の授業を実施しました。授業の特徴は、教員による講義ではなく、生徒の発表を中心に展開している点です。

授業の流れとして、まず前時の授業で、日本損害保険協会の副教材『明るい未来へTRY!』や生命保険文化センターの副教材『君とみらいとライフプラン』のほか、ライフプランに関するパワーポイント資料を配



(上) 問い掛けやクイズなど、工夫を凝らした13のグループによる発表が行われた。
(右) 発表を聞きながら疑問や感想をタブレットでGoogle Formsに入力。



付しました。それらの教材を使って、生徒は自身の担当テーマの調べ学習と発表準備を行っています。自身の担当を決めて調べ学習をすることで、そのテーマに対する生徒の責任感が高まり、積極的に知識の幅を広げることに繋がります。さらに、クラスメイトが発表することで、他のテーマにも関心を持ちやすくなります。このように、教員が一方的に説明するより、生徒自身が調べ、生徒同士で互いに教え合うことで、生徒の主体的な学びを促す狙いがあります。

『明るい未来へTRY!』は、「ライフプランを考える」という目標に沿って、学ぶべき内容が整理されており、生徒が自身のライフプランを考察できる構成となっています。こうした副教材に加え、ジェンダーギャップや女性役員の比率、空き家問題、年金制度の国際比較などの資料を追加することで、生徒は社会課題にも視野を広げながら考察

を深めることができます。保険教育においては、「自分で選択できる能力」を養うことを重視しています。社会保険の内容と、それを補完する民間保険の役割を理解し、自身のリスクに合わせて必要な民間保険を判断できるようにする必要があります。但し、高校卒業後すぐに加入有無を選択する必要があり、保険、例えば、一人暮らしを始める際の火災保険や地震保険などは、保険の中身も取り扱うようにしています。授業中の生徒の反応は良好で、友人の発表に耳を傾け、生徒が出題したクイズにも積極的に参加していました。「車を買ったから自動車保険に入りたい」、「ひとり暮らしを始めるときには火災保険に入らない」といった感想も聞かれ、リスクに対する予測範囲の広がりも感じました。また、自身の進路選択について考えを深めている生徒や、ライフイベントが集まる30代の重要性について気づきを得ている生徒も見受けられました。以前には、「将来一番役

立ちそうな授業」といった生徒の声もあり、将来の実生活に結びつく学びになっていると感じています。夢や希望を描きながら、転職やフリーランスなど多様な働き方も想定し、柔軟にライフプランを考える力を養うことができれば、授業の大きな成果だと考えています。

一方で、生徒主体の授業には、知識の正確性や時間管理の難しさといった課題もあります。そのため、学習のベースとなるパワーポイントなどの資料は教員側で用意するほか、生徒の学力に応じて、扱う情報量や難易度を調整するなどの工夫をしています。

高等学校家庭科における金融経済教育は、社会人になる前に必要な金融の基礎知識と判断力を養うものであり、重要です。将来、生徒が投資や保険に関する誤った情報に惑わされないためにも、リスクとリターンの関係、貯蓄と保険の違いといった基本的な金融リテラシーを身につけておく必要があります。

『明るい未来へTRY!』を活用した授業プランのご紹介

今回、後藤先生が実践した家庭科の授業プラン

家庭科[家庭基礎]

対応単元 生活設計

| | |
|-----------------|---|
| 目的 | 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察し、生活設計を工夫する。 |
| プランのポイント | 自身のライフプラン作成には、ライフイベント・リスクと共にかかる金額やリスクに備えるための手段を知ることが前提となるので、包括的に学習できるようにした。 |
| 使用教材 | <ul style="list-style-type: none"> 『君とみらいとライフプラン』(生命保険文化センター) 『明るい未来へTRY!〜リスクと備え〜』「家庭科用」「保険のキホン編」「やってみよう編」 冊子 パワーポイント(日本損害保険協会) |

学習の展開 ※全3時間での授業プランとなる。
※前時の授業でグループ毎にパワーポイント教材、冊子教材を活用し、各テーマの発表に向けた調べ学習と発表準備を実施している。
※生徒は一人一台ずつタブレット(iPad)を所持している。

| 時間配分(分) | 学習内容及指導上のポイント | | 使用教材等 |
|-----------------|--|--|--|
| | 学習内容 | ポイント | |
| 1時間目 導入(5分) | ①前時の授業で説明した今回の授業の目的について共有する。 ②発表の注意点、各班の評価入力について説明する。 | ▶生涯を見通した自己の生活について主体的に考えることを伝える。発表を相互評価することを確認する。 | Google Forms |
| | ●グループ毎に作成したPowerPointスライドを使用して発表を行う。 ■参考：各班の主な発表テーマ(1班：約5分) | | |
| | 1班 ■生活設計(生活設計に必要な3つの要素、人生の3大費用) | ▶ライフプランを考えるうえで、将来どのような職業・働き方をするのかによって所得が異なることや、ライフイベントにかかる費用(3大費用を中心)について知る。 | 『君とみらいとライフプラン』 |
| | 2班 ■職業と働き方(雇用形態の違い、給与明細の見方(社会保険料・税金)) | | |
| | 3班 ■結婚と家族(晩婚化の進行、共働き世帯の増加) | | |
| | 4班 ■子育てと教育(大学までの教育費、教育費の国際比較) | | |
| | 5班 ■住まい(持ち家と賃貸の違い、住居費用) | | |
| 2時間目 展開(45分) | 6班 ■高齢期(老後にかかる費用) | | |
| | 7班 ■リスク(日常生活におけるリスク、リスクに備える公的保障・私的保障) | | 『明るい未来へTRY!』 パワーポイント スライド53(Work3) |
| | 8班 ■公的保障(社会保障制度の概要) | ▶リスクに備えるための公的保障、私的保障について知る。 | パワーポイント スライド13、17、60、62(Work2)、63(Work3) |
| | 9班 ■私的保障(貯蓄と保険の違い、保険の仕組み) | | |
| | 10班 ■やってみようこと ①サイクリング ②ひとり暮らし | ▶やってみようことにはどんな保険が必要になるのかを考える。 | パワーポイント スライド64~119 |
| | 11班 ■やってみようこと ③ドライブ ④高校生活 ⑤海外旅行 | | |
| | 12班 ■やってみようこと ⑥ペット ⑦ボランティア活動 | | |
| | 13班 ■ライフプラン(自分のライフプランを考える) | ▶今までの発表を踏まえ、自分のライフプランを考える。 | パワーポイント スライド3 |
| まとめ(15分) | ①生徒が入力したGoogle Formsから分からなかったところを中心に解説する。 ②ライフプランの作成について説明する。 | ▶ライフプランを作成するには資金計画とリスク管理が必要なことを確認する。 | |

教材『明るい未来へTRY!』について詳しくはP.10-11をご覧ください。

金融分野と社会保障分野を横断して学ぶ生徒が「自分ごと」として考える授業を展開

副教材『明るい未来へTRY!』を活用して、「自助・共助・公助」という視点から、金融分野と社会保障分野を横断的に扱う授業を展開した埴先生。生徒が主体的に考えるための工夫についてお話を伺いました。



東京都立農業高等学校 主幹教諭
埴 枝里子 先生

今回の授業は、日本の社会保障制度の概要を学習し、「自助・共助・公助」の適切な組み合わせを考えることを授業のテーマとしています。また、「自助」の手段として、民間保険だけでなく、貯蓄などの資産形成の視点を入れることで、1学期の後半から学んできた、「金融分野」と関連づけて説明したことが授業のポイントとなっています。

まず、授業の導入として、超高齢社会に触れながら、「人生におけるリ



授業を受けているのは2年生。教員の問いに発言をするなど、積極的な姿勢で取り組む様子が印象的。

スク」について考えることから始めました。高校生にとって、「長生き」をリスクとして捉えることは難しいかもしれませんが、生徒自身が将来を考える上で避けて通れない課題です。「長生き」も「人生におけるリスク」の一つであることに気づいてもらうため、このような導入としました。

その後、日本損害保険協会の副教材『明るい未来へTRY!』のWorkを活用して、日本の社会保障制度と「自助・共助・公助」の位置づけを教えました。そして、民間保険と社会保険の違いについて説明し、民間保険の理解を深めてもらうとともに、両者は「保険」という仕組みにおいて同じであることを伝えました。

次に、社会保険の給付と負担の関係性を具体的に学んでもらうため、医療費領収書と給与明細書を読み解くWorkに取り組んでもらいました。ここでは、社会保障給付を受けるためには、社会保障料という負担が必要であることに気づいてほしいという狙いがありました。また、日本と各国の給付と負担のバランスに

ついて説明しましたが、今回は社会保障制度を学ぶ初回の授業であったこともあり、生徒の制度理解がまだ浅く、少し難しかったため、授業改善につなげていきたいと思っています。最後に、「自助・共助・公助」の適切な組み合わせについて、その理由と共に考察し、グループごとに発表してもらいました。

授業全体を通して意識したことは、生徒が「自分ごと」として捉えるように授業を展開することです。最初に「自助・共助・公助」という抽象的な概念を説明し、次に「社会保険」と「民間保険」、「給付」と「負担」という具体例を示しました。最後に、再び抽象度の高い「自助・共助・公助」のバランスを考える構成とすることで、生徒の理解が深まるように工夫しました。

普段の授業から、生徒が「自分ごと」として捉えやすいように、私自身の実践に基づいた話や、SNSやニュースから生徒にとって身近な話題を積極的に取り入れるようにしています。特に年金や労災といったテーマは、生徒たちの関心を引きやすく、アルバ

イトなど生徒の経験と結びつけて教えることで、実感を持った学びにつながることを考えています。金融分野と社会保障分野を結びつけて教えることは、私自身が特に重視しているポイントです。教科書では、それぞれを独立した単元として扱うことが多いのですが、実際には将来の生活設計を考える上で、両者は密接に関わり合っています。だからこそ、両者の分野を結びつけて教えるべきであり、そうすることで生徒が自らの将来を主体的に描き、社会の一員として参画する意識を育むことができると思っています。

今回の授業を通じて、生徒たちには、社会保障制度や、少子高齢化など、現代の社会問題に対する問題意識を持ってほしいです。なぜなら、制度の持続可能性に対する違和感や疑問を持つことは、学びの原動力になると思うからです。そして、選挙などを通じて自分の意見を表明することの大切さを生徒に感じてもらうのなら、今回の授業の目的は達成されたといえると思います。

『明るい未来へTRY!』を活用した授業プランのご紹介

今回、埴先生が実践した公民科の授業プラン

公民科[公共] 対応単元 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化

目的

- 日本の社会保障制度の概要を「自助・共助・公助」の観点から学習し、民間保険の加入や貯蓄を含む資産形成などは自助に該当することを理解する。
- 保険の仕組みと、社会保険と民間保険の違いを理解する。
- 医療費領収書と給与明細書など、諸資料の読み取りから給付と負担について確認し、「自助・共助・公助」の適切な組み合わせについて考察したり、構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

プランのポイント

- 自助の手段として、民間保険だけでなく資産形成の視点も入れることで、金融分野との関連性を持たせた。
- 「自助・共助・公助」の適切な組み合わせを考察させることで、これから学習する単元が深い学びとなるように工夫した。

学習の展開

本時の主題 日本の社会保障制度における「自助・共助・公助」とはどのようなものだろうか。

| 時間配分(分) | 学習内容と指導上のポイント | | 使用教材等 |
|----------|--|--|-------------------------------|
| | 学習内容 | ポイント | |
| 導入(5分) | ● 超高齢社会における人生のリスクを挙げる。 | ▶ 長い人生では予期せぬリスクが多くあり、長生きもその一つであることに気づかせる。 | 冊子 P.8~9 パワーポイント |
| 展開1(15分) | ● 「自助・共助・公助」それぞれの意味と社会保障の4本柱を確認し、日本の社会保障制度は社会保険の共助、公的扶助、社会福祉、公衆衛生の公助から成り立つことを理解する。 | ❓ 発問例 「もしも社会保険がなかったら？」 ▶ 貯蓄を含む資産形成や民間保険は自助に該当することに触れる。 | 冊子 P.8~9 パワーポイント 【プリント】 |
| | ● 社会保険の理解の確認として、冊子のWorkに取り組む。 | ❓ 発問例 「知っている民間保険会社はありますか？」 | 冊子 P.11 |
| 展開2(20分) | ● 「医療費領収書と給与明細書」、「主な国の給付と負担のバランス」の読み取りから給付と負担について理解する。 | ▶ 冊子の情報から「高福祉・高負担」、「低福祉・低負担」の特徴をつかませる。 | 冊子 P.13 【プリント】 |
| | ● 「自助・共助・公助」の優先順位を理由と共に考察し、グループで共有する。 | ▶ 意見を言う際は、根拠を持って発信するように促す。 | 【プリント】 |
| まとめ(5分) | ● 本時の学習を振り返る。 | ▶ 日本の社会保障制度においては、給付と負担のバランスを考慮しつつ、自助・共助・公助の適切な組み合わせを考えていくことが求められることに気づかせる。 | |

使用教材

- 『明るい未来へTRY!〜リスクと備え〜』「公民科用」
冊子 パワーポイント
(日本損害保険協会)

教科書

- プリント*
※プリントは『明るい未来へTRY!』のワークシートを授業の展開に沿うようにWorkの順番を再構成して利用。



教材『明るい未来へTRY!』について詳しくはP.10-11をご覧ください。

「明るい未来へTRY!」の紹介

本教材は、家庭科、公民科の学習指導要領解説に沿って活用可能な教材です。授業内容にあわせて冊子や動画、パワーポイントを利用できます。また、教材活用の参考となる「教員用手引書」も用意しています。

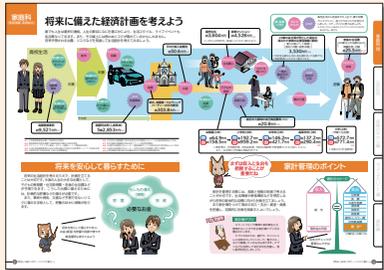


家庭科用

対応単元 家庭基礎、家庭総合の「経済計画とライフプラン」

ライフステージと各イベントで必要なお金の例をあげながら、自分の目標や夢を叶えるために必要なお金の準備の仕方や、不測の事態への備え方など、経済計画の組み立て方などについて学ぶ内容としています。

冊子



動画(1編)

学習テーマ 将来に備えた経済計画を考へよう

● 将来を安心して暮らすために

● 家計管理のポイント

● 貯蓄とは

● 資産運用

● リスクに備える保険

1. オープニング映像 約1分10秒

2. 生活設計を考える 約1分20秒

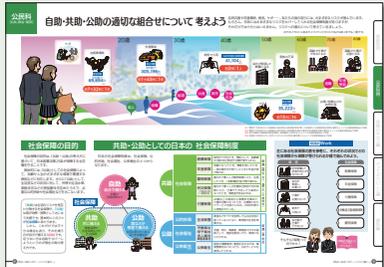
3. さまざまなライフイベントに備える資産運用 約2分20秒

4. リスクに備える保険 約2分

合計 約6分50秒

※チャプターを留意しているため、必要な部分のみ使用することもできます。

冊子



動画(1編)

学習テーマ 自助・共助・公助の適切な組合せについて考へよう

● 自助・共助としての社会保険の目的

● 共助・公助としての日本の社会保険制度

● 日本の社会保険制度の課題

● リスクに備える保険とは

● リスクに備える3つの「助」

1. オープニング映像 約50秒

2. 社会保障制度とは 約1分20秒

3. 社会保障制度の課題 約1分20秒

4. リスクに備える保険とは 約1分50秒

5. リスクに備える3つの「助」 約1分40秒

合計 約7分

※チャプターを留意しているため、必要な部分のみ使用することもできます。

生徒用教材

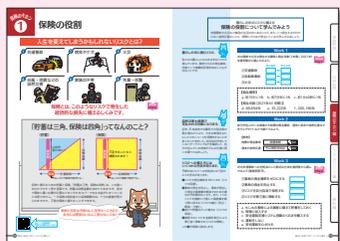
(冊子：A4サイズ/40ページ、動画：全11編)

保険のキホン編

内容 保険の基本的な知識について

保険とは、万が一リスクが生じてしまったときの経済的な損失に備えるためのものであること、さらに保険には「社会保険」と「民間保険」の2つがあることなどが学習できます。

冊子



動画(3編)

「保険の役割編」約7分30秒

「社会保険と民間保険編」約7分30秒

「保険のキホン編」約9分50秒

右の「保険の役割編」、「社会保険と民間保険編」の内容をひとつにまとめた「保険のキホン編」もあります。授業内容に合わせて使い分けできます。

やってみようこと編

内容 人生におけるリスクと損害保険について

生徒が「やってみようこと」と思っている事柄に潜むリスクの例をもとに、それにより生じてしまった経済的な損失に備えるものとして「損害保険」が存在することを学習できます。

冊子



動画(6編)

友だちと海外旅行に行きたい!編 約9分30秒

友だちとドライブに行きたい!編 約11分

週末はサイクリングを楽しみたい!編 約10分20秒

ペットを飼いたい!編 約8分30秒

高校生活を思いきり楽しみたい!編 約10分20秒

憧れのひとり暮らしがしたい!編 約11分50秒

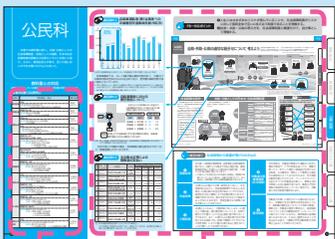
教員用手引書

(A4サイズ/40ページ)



- 各教科書の対応単元
- 生徒用冊子の各ページのポイントおよび補足資料ワークシート
- 課題「Think」の解答例
- 授業展開例や授業での生徒への問いかけアイデア
- 実際の授業事例の紹介

教員の皆さまが教材を使って授業を実施する際に参考となる情報を掲載しています。



各教科書の対応単元 生徒用冊子の各ページのポイントや補足資料

各教材のダウンロードはこちらから!

ここで紹介した各教材は、日本損害保険協会ホームページ内「損害保険教育支援サイト そんぼ学習ナビ」-「高校生向け教材」に掲載されています。なお、掲載されているデザイン、内容については今後変更の可能性がります。

<https://www.sonpo.or.jp/education/high/>



教材の構成

本教材は、次の4つのテーマで構成されています。

家庭科用 やってみようこと編

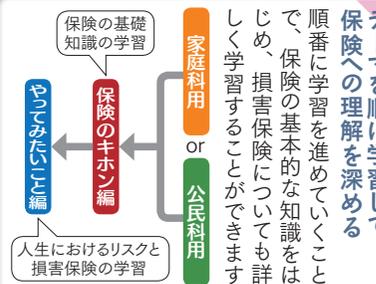
公民科用 やってみようこと編

家庭科用 or 公民科用

保険のキホン編 or やってみようこと編

やってみようこと編

人生におけるリスクと損害保険の学習



教材の活用例

授業への関心を高めるために活用する

冊子やパワーポイントには、身の回りのリスクや将来やってみようことなどに関連したイラストを掲載しており、再生時間の短い動画も多数用意しているため、授業への興味・関心を高めるのに活用できます。

Workで理解度を確認する

冊子や動画などはすべて、日本損害保険協会ホームページ内「そんぼ学習ナビ」から見ることが出来ます。また、生徒自身が教材を見るだけでなく、学習を進めることができるため、自習時や休暇中の課題としても活用できます。

グループワークでThinkを活用する

家庭科用・公民科用それぞれに掲載されているThinkは、主に選択式で答えることができる課題です。クイズ形式で進めたり、個人ワークとすることで、生徒の理解度を確認することができます。

自習時間や長期休暇中の教材として活用する

冊子や動画などはすべて、日本損害保険協会ホームページ内「そんぼ学習ナビ」から見ることが出来ます。また、生徒自身が教材を見るだけでなく、学習を進めることができるため、自習時や休暇中の課題としても活用できます。

※本誌のP.6~9に、本教材を活用した授業の実践事例を掲載しています。